

ゆうやけ第3子どもクラブ 放課後等デイサービスガイドライン評価結果分析

2026年1月22日

1. 集計結果

○回答数

- ・保護者による評価 13人（13人中）
- ・職員による自己評価 9人（9人中）

○実施期間

- ・2026年1月5日～16日

○評価の数値状況

* 別紙を参照

2. 分析・討議

○保護者による評価

- ・全体的に「はい」が多数になっている。
- ・「子どもの育ちの状況を確認、保護者との面談もしながら、個別支援計画書が半年に1回は見直し、作成されているか」の項目には、「個別支援計画には、直近の具体的な案行動の例を挙げ、自分の思いや要求を表現できることが書かれている」という意見もある。個別支援計画書には、簡潔ながらも、子どもの変化について具体的に記述するとともに、その内側に込められた子どもの願いを提起していることが評価されている。
- ・「子どもに応じた活動が作り出されるとともに、屋内や屋外の活動、長期休業中の活動などが工夫されているか」の項目には、「ブロック、絵本の読み聞かせ、おやつ作り、散歩のほか、夏期休業中は水遊びや人形劇鑑賞をしている」という意見もある。「子どもは活動を楽しみにしているか」の項目には、「指導員が事務室に入ると、散歩に行けることを期待して待ち、上着を着て出てくると、ジャンプして喜んでいる」という意見がある。「活動に満足しているか」の項目には、「いつもありがとうございます。屋内・屋外の活動、長期休業中の活動、合同の活動と多様で満足している」という意見もある。子ども1人ひとりを理解しつつ、その子に即した働きかけを探りながら活動していることが評価されている。
- ・「保護者の思いや願いを汲み取るため、懇切に対応されているか」の項目には、「本人は、限られた言葉しか話せないため、体調や服装について報告や依頼をするが、丁寧に対応してもらえる」という意見もある。「保護者との面談を行なうなどして、子どもについての状況や意見などを聞き取られているか」の項目には、「面談時や迎えのとき、学校や家庭での様子や、お願いしたい支援を伝えている」という意見もある。「保護者に子どもや活動の状況を報告する機会がつけられているか」の項目には、「会報やInstagramのほか、夏休み活動報告会があり、子ども1人ひとりの写真を見ながら報告を受けている」という意見もある。「会報などが定期的に作られて、活動の状況を知らせたり、保護者の交流を促したりされているか」の項目には、「会報やInstagramなどに、活動の様子や、保護者のバザーの感想が掲載され、互いを知るきっかけになる」という意見もある。保護者の言葉に託された思いや願いを汲み取って、子

どもの理解や働きかけに生かしていることが評価されている。また、そうしたことを会報やInstagramなどをつうじて保護者に伝えていることが好評を得ている。

- ・「親子行事、きょうだいの会など、保護者や家族が交流できる機会が工夫されているか」という項目には、「レクリエーションやパン＆シチューの親子行事など、保護者やきょうだいが交流する場が設けられている」という意見もある。「保護者が自主的につくる父母会に協力するなどして、保護者同士のつながりをつくろうとされているか」という項目には、「ガレッジセールの準備、片づけ、子どもの保育、施設見学会の依頼・バス運行・進行などをしてもらえる」という意見もある。親同士や家族同士が交流できる機会をつくったり、保護者が主体的に活動している父母会に協力したりしていることが評価されている。

○職員による自己評価

- ・全体的に「はい」が多数になっている。
- ・「虐待防止マニュアルを策定するとともに、虐待を防止するための研修を行なっているか」の項目には、「虐待防止マニュアルは、常に掲示し、いつでも確認できるようにしてある。研修でも確認している」という意見がある。「防火・防災マニュアルを策定するとともに、火災・地震に対する訓練を定期的に行なっているか」の項目には、「防火防災マニュアルは、常に掲示し、いつでも確認できるようにしてある。年に2度、消防避難訓練を行なっている」という意見がある。「感染症予防マニュアルを策定しているとともに、感染症を予防するための研修を行なっているか」の項目には、「感染症予防マニュアルも、常に掲示し、いつでも確認できるようにしてある。6月の研修でも、再度確認した」という意見がある。マニュアルは、どれをも策定して、職員の目に見えるところに掲示しているとともに、それに関する研修が実施されていることが評価されている。
- ・「子どもの事故やケガにつながるおそれを感じたときは、責任者に伝えているか」の項目には、「危険な可能性がある際は、その都度、共有している」という意見がある。「子どものことがわからないと感じたとき、早わかりしようとせず、(どうしてなのか)と、自らに問い続けているか」の項目には、「(なぜ?)(どうして?)と考えたり、ほかの職員に意見を聞いたりしている」という意見がある。「子どものことがわからないと感じたとき、傍観するのではなくて、働きかけて変化をつくりだし、理解しようとしているか」という項目には、「子どものことがわかりたいので、働きかけを工夫することもある」という意見がある。「子どものことがわからないと感じたとき、独りよがりの判断をせず、ほかの職員に意見を聞くなどしているか」という項目には、「ほかの職員と話し合う時間は大切だと思う」という意見もある。子どものことなどで気にかかることがあったときは、それを責任者に伝えることが自覚されている。職員間で、子どもの事例検討を行なうなどして、子ども1人ひとりを深く理解しながら、働きかけの方向性を見出すように努めている大事さが意識されている。
- ・「子どもの“問題行動”に出会うとき、その内側に、その子の本当の願いが隠されていると考えて、内面を探ろうとしているか」という項目には、「問題行動には、必ず理由があると思うので、子どもの思いを探り、受け止めていきたい」という意見がある。「気持ちの育ち(人格の形成)には、その子固有のテンポがあるということを押さえ

て、子どもを理解しようとしているか」という項目には、「子どもは、1人ひとり、みんなテンポが違う。その子のテンポを大事にしたい」という意見もある。「子どもの発達は、ひたすら前進するのではなくて、新しい矛盾を抱え込むと押さえて、子どもを理解しようとしているか」という項目には、「成長したからこそ、新たな壁にぶつかることがある。丁寧に汲み取り、支えていきたい」という意見もある。「大人の目の育ちに応じてしか子どもは見えてこないという、自省的な意識をもって、子どもを理解しようとしているか」という項目には、「謙虚さを持ち、子どもたちと接していきたい。子どもたちに教わりながら、自分も成長させてもらっている」という意見がある。子どもの行動の表面ばかりを見るのではなくて、その内側に込められた、その子なりの願いや悩みを汲み取る、という子ども理解を基本にして実践を進めていくことを引き続き大切にしたい。

- ・「会議や研修会を定期的を開いて、子ども理解や実践などについて深めたり、学習したりしているか」という項目には、「職員会議、職員合同研修会、事例検討会などで話し合い、理解を深めている」という意見もある。「子ども理解や実践についての、外部の学習会や講座に参加して、見識を高めようとしているか」という項目には、「自分の子育てもあり、なかなか参加できなかった。都合が合えば参加したいと思う」という意見もある。子ども1人ひとりを深く理解しながら、働きかけの方向性を見定めていくには、事例検討をしたり場面記録を書いたりすることが欠かせない。また、職場内の研修に加えて、外部の研修にも参加し、刺激を受けることが必要にもなる。こうしたことを了解しつつも、子育ての真っ最中の職員にとっては、特に外部に出向いていくことは困難もともなう。外部の研修については、オンラインやアーカイブも活用した方法も呼びかけたい。
- ・「保護者に子どもや活動の状況を報告する機会をつくっているか」という項目には、「毎日のお迎えのとき、その日の様子を報告したり、夏休み活動の報告会を開いたりしている」という意見がある。「保護者から、子どものことでの悩みなどの相談があったときは、懇切に応じているか」という項目には、「相談があった際は、その都度、個別面談などに応じている」という意見がある。保護者は日々、家族や仕事などの状況も加わって、子育ての悩みは絶えないとも言える。そうした思いに心を寄せながら話を聴くとともに、子どもの問題にも見える行動の内側に込められた、その子の育ちを提起してしていくことを引き続き大事にしたい。

3. 改善目標

○保護者による評価

- ・ほとんどが高い評価となっている。
- ・子どもの表面的な行動をそのまま伝えるのではなくて、その内側に込められた、その子の思いを汲み取り、保護者にもわかりやすく伝えていくことに、引き続き留意したい。また、その子の思いに即した活動を工夫しながらつくり出していることも、画像や動画などをつうじて、引き続き具体的に伝えていきたい。
- ・保護者の言葉に託された思いを深く汲み取りながら対応することを引き続き重視したい。インターネットの活動が進む中だからこそ、具体的な活動をつうじて、保護者と

職員や家族同士が交流できるような、楽しい活動をつくり出すことに引き続き取り組んでいきたい。

○職員による自己評価

- ・ほとんどが高い評価となっている。
- ・子どもの行動の内側に込められた願いや思いを汲み取って、その意味を、事実をもとに共有することに引き続き取り組んでいきたい。講師の話を聴くような、インプットの研修だけではなくて、事例検討をしたり場面記録を書いたりする、アウトプットの研修を引き続き重視していきたい。
- ・外部の学習会への参加は引き続き呼びかけていたい。家庭などの事情で、外部に出かけにくい職員もいるため、書籍を読んだり、オンラインやアーカイブを視聴したりする方法なども提起していきたい。
- ・子どもの行動の表面を見るだけではなくて、内側に込められた、その子の願いや思いを汲み取り、それを保護者にわかりやすく伝えることを引き続き大切にしたい。保護者の言葉に託された思いを深く汲み取って、保護者との信頼関係を築いていくことにも引き続き留意したい。父母会などの活動には、保護者と交流する機会ととらえて、引き続き積極的に協力していきたい。

4. 公表方法

○保護者・職員への文書の配布（2026年1月31日より）

○ホームページへの掲載（2026年1月31日より）